

たまには失踪したい

寺内 龍生
工学部 3年

1. もう無理だ

夏季長期休暇も終わりにさしかけた頃、私はひどく鬱的になっていた。コロナ自粛が叫ばれる中で、当然我が会の夏旅行もなくなり、インターンシップも満足に行えず、私の気分は人生の中でワーストに入るほど落ち込んでいた。

「もう堪らない、失踪だ、失踪」

私はどこかに逃げ出すことにした。少なくとも一人旅で感染症対策を怠らなければ、許されるだろう。私の決心は固い。

2. 逃げ場を探して

何処に失踪するのが良いだろうか？サンキューちばフリーパスで千葉か？いや栃木も良いかもしれない……。いやいやいや、私は何を言っている、これは「失踪」だぞ「失踪」。失踪といえば遠くに行かなければならない。近場の関東で通勤やら登校中の人々に押しつぶされて、何が失踪か。早速、遠目の都市をリストアップしよう。

- ①北海道
- ②福島
- ③金沢
- ④名古屋
- ⑤大阪
- ⑥九州

大まかにはこんな感じで良いだろう。さて、このリストから、サイコロで場所を決める。「九州は遠いからちょっとなぁ……」と思った私の気持ちを裏腹に、サイコロの導

き出した目は見事に「6」。たまげた。面白いから SNS に投稿しよう。

SNS に投稿すると早速、旅行好きな知人等から「はかた号か？」「はかた号コースか」などと、勝手に移動手段を決め付けられる。人というのは勝手なものだ。私は見たことがある。とある地方ローカル番組で「はかた号」という東京～博多間を結ぶ深夜バスに乗車し、尻に多大な損傷を負った者達を。そんな「はかた号」に乗るわけがない。と思っていたが、今回は使用を検討せざるを得ない。というのも、今回の旅行は夏休みの終わりに思いついたものなので、早く行って帰って来ないと、授業に間に合わないのである。バスの予約サイトを見ると、はかた号より安めの深夜バス「オリオンバス」があった。「安いし 3 列独立なら、これにするか」と私は深く考えず、それを予約した。(3 列独立シートとは、観光バスなどの一列に 4 人座る様なタイプでなく、一列に 3 人分の座席があり、その間に通路が挟まれているので、4 列よりゆったり座れるタイプのことである)

帰りの方法は、SNS で知人から情報を得て、手早く帰る為に飛行機を使うことにした。さてこれで失踪の計画は万端だ。

3. 急に地獄と言われても

とやかくあって旅行初日。初日と言っても、東京駅近くの八重洲口鍛冶橋駐車場からバスに乗り、寝るだけだ。東京駅に着くと、

生憎の雨模様。しかも風も少し強い。いくら地球温暖化とはいえ、これは寒い。寒空の元、バスの待合所に行くと、結構な数の乗客が先に待っていた。まさかコロナ禍の中、これだけの乗客がいるとは驚いた。しかも中には高齢の方まで居る。待合所はすでに満席で、仕方なく直立不動でバスを待つ。少し早く着いてしまったので、一時間近くバスを待った。ようやく黄色いバス、今回の旅行で乗車するオリオンバスの到着だ。ある先輩から、「今回乗るバスの写真をくれ」と言われたので SNS にあげると、先輩から「それはかた号より地獄だよ」と言われる。ええ…



図 1 乗車したバスです

予約して乗りに来たのだから仕方ない。いくらでも地獄と付き合おう。早速内部に入り込む。3列独立で通路との間に仕切りのカーテンがあるので、思ったよりも優雅そう。ここから12時間にも及ぶバス旅が始まる。やっぱりきつそう。乗車してしばらく待つと、八重洲口鍛冶橋駐車場を発車した。首都高から新東名高速道路を走行し、最初の足柄 SA で一度休憩を取る。

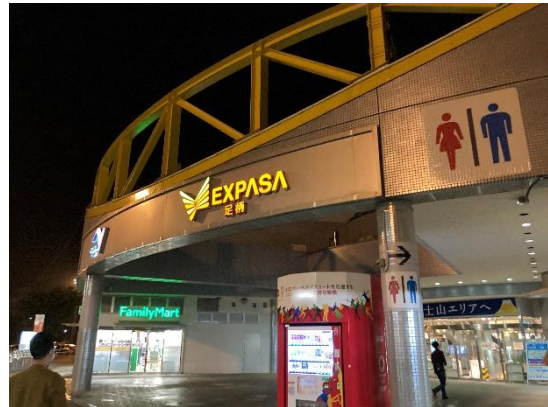


図 2 足柄 SA

ここで菓子類やらを買いだめし、再度乗車。もしここで買わなかったら、この後空腹で過ごすことになっていたかもしれない……。しばらく乗車すると眠りに落ちて、いつの間にか鈴鹿に着いていた。「もう三重か」と、夜行バスの便利性に感心した。トイレ休憩を取り、再度乗車し爆睡する。



図 3 鈴鹿 SA(サーキットでない)

ふと気づくと、朝日が窓から差し込んでいた。どうやらどこかの SA か PA に着いたらしい。運転手さんは八幡だと言っていた。もう山陽道か。外に出てみたい気持ちもあるが、まだ瞼が重いので、そのまま眠りに着く。

次に起きたのは、山陽自動車道的美東だった。時刻は午前9時を回っていた。到着時刻は12時ごろなので、あと少しで博多駅

に到着する。俄然楽しみになってきた。



図 4 美東 SA

私の楽しみは急激に訪れた便意によって、音を立てずに崩れ去った。迫る便意。思わず人生を振り返る。こんなに便意を感じたのは何時頃ぶりだろうか。ああ、あと 1 時間もあるのか。はあ。

耐えがたきを耐えた、ついに博多駅バスターミナルに着いた私は、運転手さんに一礼し、素早くトイレに駆け込んだ。幸いにもトイレには誰も入っていなかった。

激しい戦いを終えた私は、「もう帰ってもいいんじゃないか?」と思い始めた。待て、博多に来てトイレをして帰りました、というのは流石に恰好が付かない。正気を取り戻した私は、最初の目的地に向かうのであった。

4. うどん

時刻は 12 時を過ぎ、お昼時だ。まずは「牧のうどん」に行こう。どうやら有名なうどん屋さんらしい。博多駅前を通り、近くのビルの地下に入る。ドラッグストアの横を通ると、お目当ての「牧のうどん」だ。



図 5 牧のうどん

店内はお昼時とあって中々の混雑具合。食券制なので機械から食券を購入する。かしわご飯と山菜うどんを頼む。夜行バス明けなのでお腹に優しいと嬉しいなあ、と思いながら待っていると、うどんが到着した。「でかい……」一言目はそれだった。明らかに大きい。まさかこんなに大きいとは。かしわご飯を頼んだのは失敗だったか?ともかく食す。いただきます。ずるずる。甘い!そうか九州だから甘いのか!これは相当重いかもしれないぞ。決意をキめる。甘い甘いと言いつつも、その味は美味しく。かしわご飯も美味しい。これは良い。ただ今度は小さいサイズにしようかな……。ともかく御馳走様でした。



図 6 うどん概要

たまには失踪したい

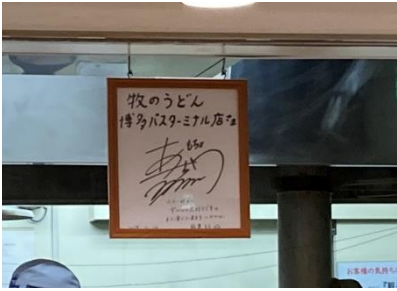


図 7 店内にあった誰かのサイン

5. うみへ出るつもりじゃなかったわけじゃない

さて、ようやく鉄道要素が出てくる。まずは西戸崎を目指して博多駅から鹿児島本線に乗る。



図 8 博多駅



図 9 813系

博多に来るのは大体1年半ぶりだ。車窓には薄曇りの元に、薄っすらと記憶に残っていた街並みが見える。あの時は友人3人と来たが、今日は一人旅だ。知らない街をぼうっと見ながら思いに耽る、これが一人旅の醍醐味だろう。しばらくすると香椎に着いた。ここでしばらく待ち時間がある。



図 10 香椎駅での様子(上2枚)

香椎駅の周り普通の住宅街といった様子だった。できることなら降りて探索したいが、今回は時間もないので断念する。そういえば、今回乗車した深夜バスは最後の便意さえ除けば、そこそこ良かったな、と思う。思ったより地獄ではなかった、今度も利用してみよう。ようやく電車もとい DENCHA が来たので乗り込む。ここからは西戸崎まで香椎線に乗る。

JR九州ならではの、木製の座椅子に座る。これが堪らない。座り心地も良く、とてもリラックスできる。呆けていると段々海が見え始めた。私の地元は海なし県なので、海へのあこがれは人一倍強い。海を見ると興奮が抑えきれない。しばらく待つと目的地の西戸崎に着いた。



図 11 座席の様子

西戸崎は半島の先というべきか、海にせり出した場所であるので、海が非常に近い。折角なので波際を散歩してみよう。



図 12 西戸崎駅

西戸崎駅の前は、曇天のせいもあってか、少し重い雰囲気を感じた。観光シーズンでないせいか人もまばらで、やはり終着駅だからなのか発展している様子もない。海の方へ向かうと、フェリーの発着場があり、その横から波際の歩道へ行けるらし

い。波際をひたすら歩く。磯の香りと海風、波音を体中に浴びると、海に来たという実感が強くなる。海の奥に、博多の都市だろうか、何か建物が見える。地図で確認すると、どうやらふ頭らしい。それにしても、ひたすら物悲しい。私一人しかおらず、天気は曇天で今にも雨が降り出しそうだ。海風は強くなる一方で、私の体温を奪おうと必死だ。もしこれがアニメなら今から悲壮な展開になるのは必至だ。それを踏まえても雨模様の海というのは、絵になる。晴れの海と雨の海は、どちらも趣があるのだろうか。



図 13 海

しばらくボケっと歩くと波際の歩道の終わりを迎えてしまった。仕方ないので県道沿いを歩くことにする。ぱしゃぱしゃ歩いていると、雨が本降りになってきてしまった。本当は海の中道あたりの公園を探索するつもりだったが、この大雨では無理そうだ。大人しく海の中道駅の待合所で座して待つ。待っていると家族連れやらカップルやらが待合所に入ってきた。香椎線沿線は割とお出かけスポットなのかもしれない。



図 14 海の中道駅の駅名標

待ち惚けしていると、やっと香椎線の列車が来たので乗り込む。ここからは香椎線のもう一方の終着駅である「宇美」を目指す。「うみ」から「うみ」を目指す。「うみ」の反復横跳びだ。西戸崎周辺は海だったが、「宇美」方面に行くにつれ列車は山へ向かってゆく。中高生と思わしき人たちを乗せながら、車窓の緑は深まって行く。ついに宇美に着いた。



図 15 宇美駅

6. あめの下

そんなこんなで宇美に到着した。海ではない。天気は変わらず雨がぽつぽつと降っている。ここでバスに乗り換え、太宰府天満宮を目指す。乗車するバスは西鉄バスだ。だが乗るはずのバス停が見つからな

い。駅前のバス停は違う方面へ行くので乗ってはいけない。どこだ、バス停は。そんな内に乗るはずのバスの出発時刻は過ぎてしまった。ようやく見つけたが、なんと次のバスは45分後。それまでバス停に併設されている小さなベンチで寒空の中一人待たなくてはならない。なんということだ。明日風邪でも引いたらどうするんだ。帰れなくなるぞ。不安に駆られはするが、どうしようもないので、ひたすら待つ。そういえば明日台風が本土に来るらしい……。私は果たして帰れるのだろうか……。



図 16 宇美町役場入口のバス停

ようやっとバスが来たので早速乗り込み、太宰府天満宮を目指す。バスの中で、本日の宿を手配しよう。本当はネカフェに泊まるつもりだったが、もし明日風邪を引いたりしたら大変なので、急遽予定を変更して、しっかりと休息を取ることにした。バスからの車窓は見事に「山」といった感じだった。宿の手配もしていたのであまり記憶にはない。

宮前、というバス停に着いた。どうやらここからだ太宰府天満宮が近いらしい。

運転手さんに降りる際に、天満宮への道を尋ねると、「ああ、その道を左に曲がると、そうですよ」と言われた。明らかに細い道があるのだが、本当にそれか？と訝しみながら、その道を覗き見ると、本当に天満宮だった。いや、太宰府天満宮の裏口だったというべきかもしれない。とにかく太宰府天満宮に到着した。



図 17 太宰府天満宮①

やはり人もまばらなので、折角だから人の少ない太宰府天満宮を満喫する。雨の嫌なところは傘を差さなくてはいけない点だ。逆に好きなところは、晴れの日と違う趣が見られる点である。雨の降る中の神社というのは神秘性が増すように感じられて私は好きだ。境内を散策するとおみくじがあるので引いてみる。中吉だった。旅行は盗難に注意すれば良いらしい。面白味がないなあ。天満宮を裏口からお参りするという、罰当たりなことをしながら散策しているせいかもしれない。偶然裏口から入っただけなので無実にしてほしい。それにしても天満宮の中は綺麗な景色で溢れている。(図 18 参照) 歩くだけで心が洗われるようだ。



図 18 太宰府天満宮②

7. 地下鉄に乗ってみよう！

さて次の目的地に向かうか、次は福岡市地下鉄の乗り潰しをするために天神付近を目指す。西鉄の大宰府駅から鉄道に乗る。



図 19 西鉄大宰府駅

西鉄は初乗車なので少しワクワクしている。思ったよりも乗客が多いな、というのが第一印象だ。ローカル線らしさを感じながら乗車し、西鉄二日市で天神方面へ一度

たまには失踪したい

乗り換える。乗り換え先は少し混雑していた為座ることは出来ずに立ちっぱなしだった。



図 20 西鉄にサヨナラバイバイ



図 21 薬院駅

薬院についた。ここで福岡市地下鉄七隈線に乗り換える。さて、地下鉄について話したいところだが、如何せん地下というだけあって風景がない。あっても夜なので何も見えず、感想は座席が木製で良かった、というだけしかない。仕方ないのでダイジェストでお送りする。



図 22 七隈線の車両
(なぜ斜めの写真なのか)



図 23 終着の橋本駅

橋本駅から天神南まで乗車し、一度ホテルまで歩く。天気はやはり雨だがあまり関係ない。



図 24 今夜の宿 東横イン

ホテルに着き、一度荷物を置き休憩して、再度乗りつぶしに向かう。今度乗車するのは福岡市地下鉄箱崎線だ。空港線は前回一度乗っているの今回スルーする。こちらやはり夜なのであまり車窓は見え、何をするわけでもなくあっという間に終着駅の貝塚駅に着いた。

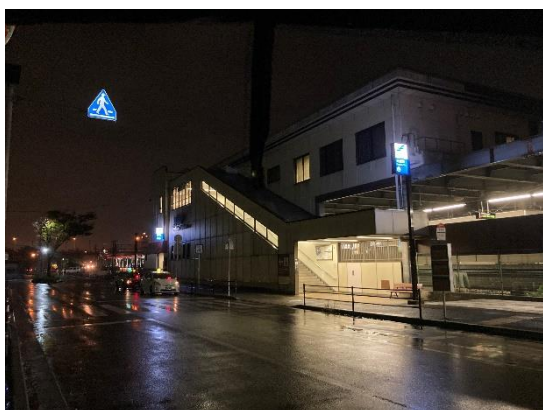


図 25 貝塚駅

さて天神に帰るか、と思い再度箱崎線に乗車すると、私が乗った車両には誰も乗っていなかった。乗車した時間が22時頃ということもあってか、人一人おらず、なんとも物悲しい。ただ、もし九州に来ないで関東で旅行を済ませていたらこの悲しさも味わえなかったのかと思うと、少し嬉しい気持ちになった。そういえば、これは失踪（という名目）なのだから、人目に付かないで移動している、これはこれで良いのかもしれない。その後はホテルに帰り、コンビニで購入したご飯を食べ、明日の事を考えながら眠りに着いた。



図 26 誰もいない

8. 仕方ない、帰るか

目が覚めると朝の6時半だった。予定通りの起床を喜ばしく思いたいが、まだ眠いので、そうも思えない。眠っている体に鞭を打って用意をする。今日は空港で8:45の便に乗り成田まで行く。そこからは京成やJRやらを乗り継いで埼玉まで帰る予定だ。

ホテルを出ると、爽やかな秋風と朝日を感じる。昨日の雨雲はどこにもなく、まさに晴天だった。



図 27 ど晴天

天神駅から空港線に乗る。朝というだけあって学生や社会人が多い。「俺は今から東京に帰るんだぞ」という謎の優越感を持っていたが、どちらが社会的に良い人なのかは一目瞭然だ。

福岡空港に着いた。チェックインもそこそこに、朝ごはんを食べに行く。しかしどうやら、朝ごはんを提供している店は少なく、どれも少しお値段が高い。う～ん。我慢します。

というわけで昨日買ったお菓子の残りとお水で朝ごはんを済ませます。お腹すいた。

まあ空腹は仕方ないので、ひたすら我慢する。搭乗時間が近づく。荷物検査場の検温もばっちり通過し、荷物検査を済ませ、搭乗口近くで待つ。待っている間は特に何もなく、しばらく待つと次第に搭乗が開始された。どうやら今回搭乗する Jetstar ☆ は搭乗口からバスで移動しないと飛行機に乗れないらしい。バスはなんだか古いタイプだったがバスのオタクではないので型式までは分からない。



図 28 バス内部から撮影した機体

機内に乗車する。シートは革っぽい革なのだろうか、これ。ともかく座る。そこそこの座り心地だ。機内アナウンスが流れ、安全についての放送が流れている。

少し待つと離陸した。後は待つだけで、私は関東に強制送還される。今回の旅は、突発的かつ急ごしらえだった割には、楽しかった。今度は全てが行き当たりばったりの旅行もしてみたいものだ。想いに耽っていると、いつの間にか成田空港に着いてしまった。私の旅はここで終わりだ。また、いつか、現実が嫌になったら出かけたかったものだ。

その後、帰りの電車に一本乗り遅れたり、レポートの締め切りがその日までだったことを思い出して列車内でレポートをやったりしたのは別のお話。

ちなみに午後からの授業には余裕で間に合ったのですが、出席確認をし忘れていたので遅刻扱いになりました。おわり。

9. あとがき

「失踪とは何なのか。これではただの旅行じゃないか。」と何度も旅行中に思ったのだが、それは心に封じ込めておいた。そもそも最初の行先決めの手を SNS に投稿している時点で失踪にも何にもなっていないのではないかと。いや、まあ、ともかくだ。今回の旅行もとても楽しかった。感染症の流行もあって、感染しない・させない様に注意を払いながらの旅行であったが、十分に楽しめた。緊急事態宣言が解除された暁、もしくは情勢が良くなっていそうなら、また「失踪」したいものだ。

ラブライブ！ 伊豆箱根鉄道!!

外山 諒
(工学部 3年)



写真1 Over the Rainbow号(三島二日町-大場)



写真2 HAPPY PARTY TRAIN(三島二日町-大場)

1. 始めに

私は鉄オタでもあるが、ラブライバーでもある。

この旅(2/18)の1ヶ月前(1/18)にも伊豆箱根鉄道を訪れているが、そのときは他の用事のついでに寄ったようなものなので滞在時間は短く、天気も悪かったので、この度は再突撃を敢行した。

2. ラブライブ！ラッピング車

決行日は天気に恵まれた。三島駅に到着したところで前回は購入しなかったラブライブ！仕様のフリー切符を購入した。



写真3 ラブライブ！仕様のフリー切符

Over the Rainbow 号が3月を以て終了するということもあり、ヘッドマークがLAST RUN 仕様となっていた(フリー切符のおまけも)。



写真4 LAST RUNのヘッドマークを付けた
Over the Rainbow号(三島)

(8月追記 / Over the Rainbow号はコロナ禍の影響により現在も運行を続けているようである。詳細は伊豆箱根鉄道のHPを参照されたし)

この週末にはCYaRon!のライブを控えていたので、HAPPY PARTY TRAINのヘッドマークはCYaRon!仕様になっていた。



写真5 CYaRon!のヘッドマーク

どちらの電車も車内にもラブライブ！要素が散りばめられており、車内でも写真を

撮りまくっていた(写真は鉄道とは無関係なので割愛する)。

3. 富士山と共に

伊豆箱根鉄道の写真には電車と共に富士山が写っているものが多い。そこで、自分も富士山と撮りたいと思い、ネットで有名な撮影スポット(三島二日町-大場)に行くことにした。



写真6 HPTと富士山



写真7 Over the Rainbow号と富士山



写真8 3000系と富士山

4. おまけ

この時は特急踊り子号の車両置き換えが始まる時でもあった。関東圏唯一の国鉄型特急 185 系やバブル期の象徴 251 系スーパービュー踊り子 (SV0) もカメラに納めた。SV0 に関してはこの度のダイヤ改正により引退が決定しているのので、これが見納めとなるだろう。



写真 9 185 系踊り子 (三島二日町-大場)



写真 10 251 系 SV0 (熱海)



写真 11 HPT と 185 系踊り子 (韮山駅)



写真 12 185 系踊り子 (熱海)

参考文献

- (1) 伊豆箱根鉄道グループホームページ,
<http://www.izuhakone.co.jp/>
- (2) 鉄道全線・撮り鉄ウォーキング,
<http://railway.xvs.jp/sunzu/mishima-futsukamachi.html>

2020 年度私的写真集

外山 諒
(工学部 3 学年)

1. はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により自粛が騒がれた年となりましたが、鉄道は走り続けています。この度は、写真集という形で鉄道の姿をお楽しみ下さい。

私は、2月に伊豆箱根鉄道を訪れているが、別に「ラブライブ！伊豆箱根鉄道!!」という記事を執筆しているので、ここでは省略します。そちらの記事もご覧頂ければ幸いです。

2. 宇都宮・新潟編 (2020/11/21)

205系、E3系の退役が進み、2020/11/21に宇都宮・新潟に日帰り弾丸旅行を決定した。



写真1 205系湘南色(宇都宮駅)



写真2 205系いろは



写真3 EV-E301系 ACCUM

2020 年度私の写真集



写真4 E4系MAX(大宮駅)



写真5 E7系とき色



写真6 E3系つばさ単機運用



写真7 E3系現美新幹線(新潟駅)



写真 8 新津鉄道資料館 (200 系新幹線と C57 蒸気機関車)



写真 9 C57 蒸気機関車 (運転台より)



写真 10 新津鉄道資料館第二実車展示場



写真 11 C57 SL ばんえつ物語 (新津駅)

3. 踊り子編

2020～2021 年にかけて特急「踊り子」号の車両置き換えが行われる。

① 185 系踊り子 → E257 系踊り子



写真 12 185 系(熱海駅)



写真 13 E257 系 (大船駅)

② 251 系スーパービュー踊り子 → E261 系サフィール踊り子



写真 14 251 系(熱海駅)



写真 15 E261 系 (東京駅)

4. 最後に

この度、記事不足ということで急遽写真集という形で記事を作成しました。

次号には、

- ・新潟弾丸旅行(仮題)
- ・踊り子全集(仮題)

という形で記事を掲載できれば、と考えております。お楽しみに...

編集後記

空転防止 961・61 合併号をお読み頂きありがとうございます。空転防止編集長の工学部新4年寺内龍生(てらうち りゅうせい)と申します。本来であれば、新しく空転防止担当となった新3年の亀山君が、今回の空転防止を編集・担当する予定でしたが、今年度は3月にコミセンでイベントが開催される都合や(そのコミセンのイベントも中止になってしまいました……)2020年内の活動がほぼ無かったにも関わらずに新3年に仕事を与えるのもどうかと思い、今号も私が担当させて頂きました。合併号ということで、もう少しページ量を増やすことができれば良かったのですが、私の努力不足の末、ページ量が少なくなってしまい申し訳なく思います。

さて、今年度も鉄道に関して多くの出来事がありました。やはり COVID-19 の流行による影響が特筆すべき点でしょうか、終電時間の繰り上げや利用客の減少、車両の窓を開けながらの運転、減便など、挙げればきりがありません。我々鉄道研究会にも影響があり、新歓運動会や夏旅行の中止、むつめ祭やコミセンの中止など様々な影響がありました。2021年3月時点だと、まだ新一年生と直接顔合わせすらできていない状況です。授業も2020年度はオンライン化が進み、同学年との交流も少なくなってしまいました。鉄道業界だけでなく社会全体に暗雲が立ち込める中、新たな車両の登場など明るいニュースもありました。e257系やe261系、N700Sなどの新車両の登場が特に印象に残っています。また、2020年3月の話にはなりますが、常磐線の全線開通や特急「ひたち」の仙台行きの復活も明るいニュースとしてあります。社会全体に不安が広がる中、このような明るい事を見つけて、どうにかメンタルを保っていきたいと思う今日この頃です。

重ねてお礼を申し上げますが、空転防止 961・61 合併号を最後までご覧下さり本当にありがとうございました。今後とも、埼玉大学鉄道研究会と「空転防止」をよろしく願いいたします。



いすみ鉄道大多喜駅前にて

2021年3月
埼玉大学鉄道研究会 空転防止編集長
寺内 龍生
(工学部3年)

埼玉大学鐵道研究会會報

空 転 防 止

第 **961・61** 合併号

.....

埼玉大学鐵道研究会

2021年3月 発行

©2021 埼玉大学鐵道研究会